

学校名	北杜市立長坂小学校	教科等	総合的な学習の時間、 生活科を中心とした各教科等
研究主題	学びを深め、主体的に社会に参画する児童の育成 —教育課程の改善と子供主体の授業実践を通して—		

1. 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① **カリキュラム・マネジメントの視点から教育課程の改善を図る。**
 - ・総合的な学習の時間（以下、総合と表記）及び生活科を中心に教育課程を見直し、改善する。
- ② **深い学びにつながる教科等横断的な学びを見いだす。**
 - ・探究的な学びや教科等横断的な学びについての研究を深め、その実現を目指す。
 - ・主体的に社会に参画しようとする態度の育成に向けた授業改善を推進する。

(2) 具体的な研究活動

時期	①について	②について	共通
通年	クラウドで本校教職員による情報共有（研修会での学びの還元、振り返りシートの共有など）。		
4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・総合では、各学年と研究主任で「教材の特性」「児童の実態」「教師の思い」の3つの視点から既存のテーマや指導計画を捉え直し、1年間の大まかなイメージを確認した。 ・生活科では、担当指導主事の助言を踏まえながら、生活科の探究シートを作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中教審の資料や本校の教職員の考えを基に、主体的な学びや深い学びの具体的な姿を書き出し、共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな教科等横断的な単元計画表を作成した。 (資料1) ・探究的な学びを展開するための探究シートを作成した。 (資料2) ・深い学びを支える情報活用能力システム表を作成した。 ・指導主事や山梨大学三井一希氏を招聘し、定期的に授業観察及び指導助言を受けた。特定の学級ではなく、全学級を参観していただき、クラウドを活用しながら即時フィードバックをいただく方法をとった。
6月～	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな指導計画等の下、実践を行い、1学期末にカリキュラムや生活科の探究シートの点検・評価を行った。点検・評価の前には、各学年の進捗状況や成果等を報告し合い、改善の材料とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究シートを活用しながら、各教科等において、本校で設定した主体性や深い学びの姿の実現を目指した探究的な授業を重ねた。 ・探究シートはクラウドに保存して、いつでも自由に実践を見合える環境を整えた。 	
9月～	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等との関連を意識した授業づくりを意図的に行った。 ・自主公開では、これまでの研究の流れを「できなかった・難しかった」等、改善点も明確に示し、参加者とともに考える場にした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事を招聘し「社会参画」の意味や、授業への取り入れ方についての学習会を行った。 ・探究的な学びにつながる各教科等における子供主体の授業の実現に向けて、三井氏からクラスごとに課題の提案を受け、授業改善につなげた。 	
11月～	<ul style="list-style-type: none"> ・自主公開の際にいただいた意見を踏まえて、2学期末にカリキュラムや生活科の探究シートの点検・評価を行った。点検・評価の前には、各学年の進捗状況や成果等を報告し合い、改善の材料とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケール表(資料2)を取り入れた授業改善に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学びにつながる各教科等における子供主体の授業の実現に向けて、スケール表(資料2)を取り入れた。
1月～	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の本校の総合、生活科の教育課程編成作業において、今 		

	年度の研究成果をそのまま活用したり、教科横断的な学び(相互関連)が分かるようなフォーマットを作成したりした。		
--	--	--	--

【資料1 (一部抜粋)】教科等横断的な単元計画表

5年生							
月(時数)	単元名	関連する各教科・単元	関連が考えられる知識等	評価方法①	評価方法②	評価規準(6評定)	人材・校外連携等
4月	日本の食(米)のおいしさの要因を探ることを通して、日本の食文化の大切さに気付く。	①日本の食に関わる既知の事象をとらえる。(ウェビングマップ) ②体験(北杜市産や外国産のお米を食べ比べる等)を通して、「おいしさ」への関心を高める。					
5月		③体験から問いをつくり、学習課題(第1サイクル)を設定する。	理科:植物の発芽と成長	理科:植物の育ち方を調べることを通して、植物の発芽と成長の条件について理解を図る。	個人内	B:体験活動や調べ学習を通して、地域の農業や生産者の現状、日本の食糧問題について関心をもつことができる。	
6月		④米のおいしさを支える要因を探る。(情報収集)※田植え体験 ⑤調べたことを整理し、考えを深める。(整理・分析)	社会:未来を支える食料生産	社会:農家の人たちが、様々な工夫や技術を取り入れて、安全や環境に配慮した米づくりを進めていることをとらえている。(知識及び技能)	ポートフォリオ	観察	・田植え体験 ・農業法人株式会社びっと
7月		⑥学んできたことをもとに、おいしさの秘訣をまとめる。 ⑦社会的視点から食を捉え直し、新たな学習課題(第2サイクル)を設定する。	国語:みんなが使いやすいデザイン 道徳:一ふみ十年	国語:情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。 道徳:自然とのよりよい関わり方と、自然環境を大切にしていることとを思いについて考えている。(思考・判断・	制作物	自己・相互	・合鴨湖の見える ・田んぼの生態系調べ ・農業法人株式会社びっと

【資料2】探究シート及びスケール表

学習過程	情活	授業の具体	学び方	子ども主体/深い学び実現に向けた手立て	効率化の手立て
① 課題設定		「収益金をどう使う?」「感謝の念をわたいという意見も出てたけど、どうしたら伝えられるかな?」「命まで3年生がやってみてみたいことや感じたことを伝えられると北杜市の良さが伝わるね」と問い、ゴールを共有する。	全	探究した活動等集(種まき、草取り)を提示し「自分の考えを整理して書いたら話を簡単に話さない」「聞けてくれたO.Oさんに食べしてほしい」という内面的な動機を引き出した。誰に何を伝えるのかを明確にするよう、問いかける。	2学期にそれぞれの組で出した成果物をみんなで見ながら進める。
② 解決の見直し		グループに分かれて活動内容を出し合う。(予想されるグループ:調理・採・会場準備)	全	感謝の念をカレンダー等でゴールを可視化できるようにする。	
③ 調べる(チェックリスト)		タブレットや今までのワークシート等でグループごとに家を出し合う。話し合う。	個・グ	同上	ワークシートやCanvaを用い、話し合いの内容を効率的にメモできるようにする。
④ 情報の整理・分析		出されたアイデアを「予算・わくわく度・感謝の伝わり度・実現可能性」の座標軸で比較検討したいな~どんな思考ツールがいいかな	個・グ	単なる多数決で決めるのではなく、思考ツールを活用させ、児童自身が方法を合意形成できるようにする。	
⑤ まとめ・表現		チームごと決定事項を伝える。	全		
⑥ ふりかえり		今日決めたことは、本当にゲストや先生を笑顔にする内容かを各自問答する。	個	他者意見に基づいた意思決定が行われたかを振り返る。	

課題	1	2	3	4	5
課題(決まらず)	教師が課題を決める	ほぼ教師が課題を決める	子供が選択から課題を選ぶ	子供が選択をつくり、選ぶ	子供が自分で課題を決める
過程	教師が選んで過程を選ぶ	子供が過程のどこかを意識する	過程の一部で子供が選んで過程を選ぶ	過程の一部で選んで過程を決める	すべて過程で意識決定で過程を選ぶ
形態(個別/協働)	教師が選んで過程を決める	ほぼ教師が選んで過程を決める	子供が選択から過程を決める	ほぼ子供が自分で過程を決める	子供が自分で過程を決める
ツール	教師が選んで過程を決める	ほぼ教師が選んで過程を決める	子供が選択から過程を決める	ほぼ子供が自分で過程を決める	子供が自分で過程を決める
場所	教師が選んで過程を決める	ほぼ教師が選んで過程を決める	子供が選択から過程を決める	ほぼ子供が自分で過程を決める	子供が自分で過程を決める
ペース	全員同じペースで学ぶ	ほぼ同じペースで学ぶ	一部学びたいペースで学ぶ	子供が学びたいペースで学ぶ	子供が学びたいペースで学ぶ

2. 研究の成果と課題 (○成果 ▲課題)

- ①について
- 教科等横断的に学習のねらいや内容に関連付けることで、教育課程全体の把握ができるようになり、学びの質が向上した。
 - 各教科間のつながりや、児童の実態を意識した単元設計が可能となり、授業の一貫性や深まりが生まれた。
 - 各教科の学習内容を整理する中で、共通する資質・能力を捉えやすくなった。
 - 児童は、年間の学習の流れを見通すことができるようになり、主体的に学びを展開する力が育った。
 - ▲教師も児童も、関連する知識等を考えながら学習を進めるが、単元によっては関連の必然性が弱く、つながりを感じにくい場合がある。
 - ▲複数教科にまたがる場合の評価について、教科に位置付けて整理する必要がある。
 - ▲児童の主体性や興味関心に応じて、柔軟に計画を変更する必要がある、マネジメントが難しい場面もある。
- ②について
- 教科等横断的な学びの視点を取り入れることや探究シートを用いて情報活用能力や学び方を学習過程に位置付けて考えることで、学習内容とのつながりを捉えやすくなり、探究的な学びの実践につながった。
 - 児童は、探究の課程を繰り返すことを意識できるようになってきた。自分たちで問いを立て、解決に向かって学びを進める経験を通して、主体性や協働性が向上した。
 - ▲シートを作成する上で、考える視点が多く、作業負担が大きかったため、重点的に指導する項目を設定し、焦点化する等の工夫が必要であった。
 - ▲興味関心や表現力等に起因する学びの深まりの個人差に対応する支援について検討が必要である。
 - ▲児童の学習展開がパターン化され過ぎる実践が見られ、学びが形式的になる懸念があった。